縦横無尽 タテとヨコ色とかたちのフィールドワーク 足機とタテ糸の張力と織機の型式 足機

<table>
<thead>
<tr>
<th>著者</th>
<th>吉本 忍 ] 東京都立大学 東京都立大学大学院 ヨシモト シノブ</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td>雑誌名</td>
<td>月刊染織</td>
</tr>
<tr>
<td>巻</td>
<td>なし</td>
</tr>
<tr>
<td>ページ</td>
<td>なし</td>
</tr>
<tr>
<td>発行年</td>
<td>なし</td>
</tr>
</tbody>
</table>
| URL        | http://hdl.handle.net/10502/5224 }
足でタテ糸に張力をかける機

足でタテ糸に張力をかける機は、足をタテ糸に張力が付くようにするために使用される機械です。足を張力に合わせることで、足の負担を軽減し、繊維の張力を正確に管理することができます。足を操作する機能が付いているため、操作者が簡単に張力を制御することができます。

写真1 メタツ人の繊維（カメルーン、ウボ：2000年）a1～a2タテ糸保持株、bタテ糸間接保持株（木棒）、e繊打針

写真2 メタツ人の繊維（カメルーン、ウボ：2000年）a2-タテ糸保持株、b-タテ糸間接保持株（木棒）、e繊打針

足機

タテ糸の張力と繊機の型式2

吉本 忍

タテ糸の張力とは、繊維の張力を正確に管理することを指します。繊維の張力は、繊維の強度や伸縮性に影響を及ぼすため、繊維の品質に直接関係しています。繊機の型式2は、繊維の張力を正確に管理するための機械です。ライオンは、繊機の型式2を利用して、繊維の張力を正確に管理することができます。

角田ヨウコのフィールドワーク

20世紀は、このプログラムが実行されていたことから、このプロジェクトは、日本の文化を維持するための必要性を示しています。しかし、この国は長年にわたって内戦が続いていたことから、それは望ましいではありません。
写真3 足機として機能している織りはじめの機構
（カメルーン、クボマ：2000年）

写真4 柄機として機能している織り途中的機構
（カメルーン、クボマ：2000年）

なお、カメルーンでメタランの近隣に住んでいるティカール人の機織りは、現在は精機を使用しているが、古くはメタランの手はあらじように織りはじめの段階では精機に張力を付与されていないと言われており、足機として機能していたことがあらかじめである。